茶道筌蹄

二

457

茶道筌蹄巻之二

目録

懸物
表具名所
同筆者
諸家茶道
和漢禅師
大徳寺歴代
和漢画家
連歌師

T044

茶道筌蹄巻之二

○懸物之部

一文字風帯中上下の表具ハ宋朝(ソウテウ)の製也是を
略して名つけて好を見るなり

真表具　本紙の縁に細き筋乃入たるをいふ仏表具三
幅対(フクツイ)の中無すべからざるなり此筋を匂ひといふ

幢(トウ)褙(ホウ)　両脇の広さ紙にてせばきハ一寸八分あり無地より
麁しを順く廣さを周囲僻し中乃下を通したる
より廣さをなし

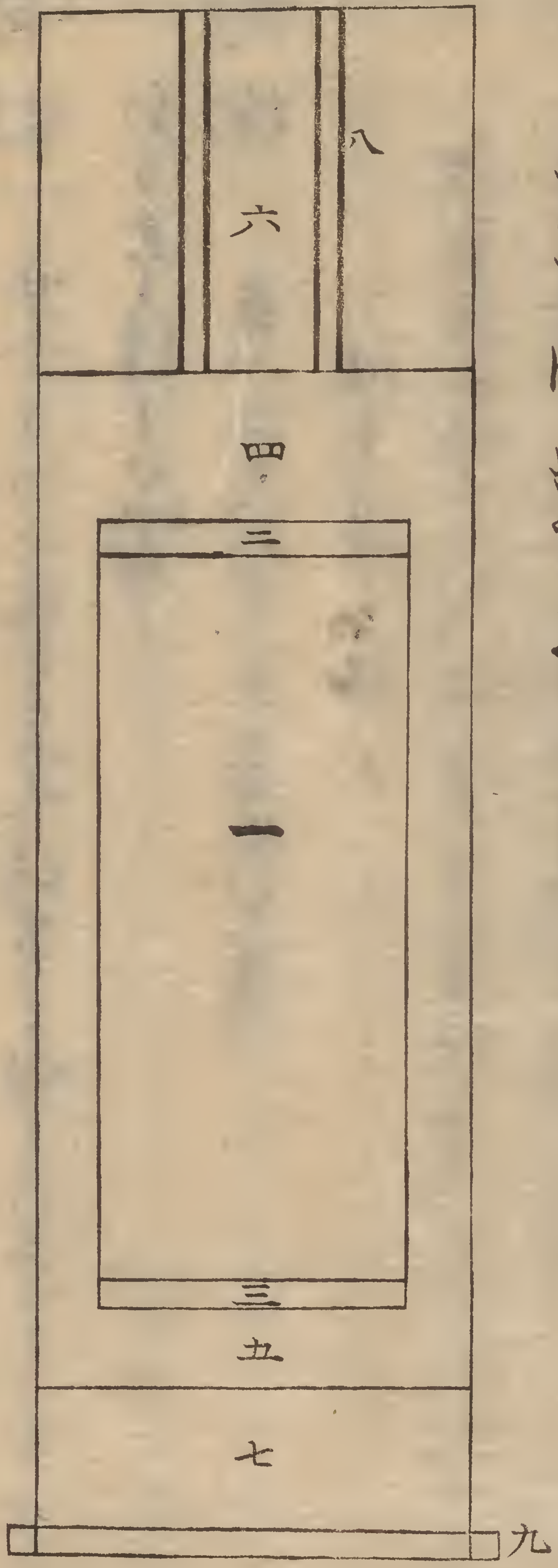
輪褙　両脇乃せばきを以て口有あり無物ニ麁く順く
て廣くするなく

徐熈表具　宋朝製の寸法よしとて一文字を去りし
なり珠光の好といふ
表具之寸法　一文字の上ハ一寸なり其下モ文分之中ハ
一文字の上ヲ四倍して四寸中の下モハ中の上ハ四寸を
半割まて二寸く上下の上ハ中の上ハ四寸を二倍して
一尺二寸く上下の下モハ上下の上ハ乃半分まて六寸なり
何れも此割まてかし下モを加ふれバよし　風袋ハ無物の
巾一尺なれバ七分足らず巾狭き無物ハ恰好見合せべく
表具名所
軸(ヂク)　唐紙半切の巾まで出八分
象牙(ザウゲ)　角(ツノ)　塗物
朱地類
軸木　軸に付く木なり杉を用ゆ

表木　上の巻留に入れる木也
上巻絹　浅黄　巻留より下に付る絹也巻物の表紙のごとし
無絹　釘へ無る所の絹なり
啄木(タクボク)　サナタの打紐の名也浅黄と紺との打分けをいふ
なり巻緒とて宜し
掛棹(カケサヲ)　長サ二尺八寸矢筈竹を用也
紙表具之始
紙表具の始りハ利休居士笑嶺和尚の文を紫地印金
の一文字ハ唐紙の中風帯浅黄紙の上下を用ひ
られしと然ども一文字風帯を去て今の張風帯ハ
きられしハ元伯好之

魚物と見る心得

本紙一文字中上下風袋軸とも一二三の順次付て
覚へ置時ハわすれることなし



○同筆者

○千家歴代

不審庵歴代の事ハ茶祖的伝の要しを紀し
行きバ爰に贅せず

不審庵利休宗易　抛筌斎
天正十九年辛卯二月廿八日卒ス年七十

嫡子道安　一咄斎　眠翁
天正十五年丁亥七月朔日卒ス

二代少庵宗淳
慶長十九年甲寅九月七日卒ス

三代元伯宗旦　咄斎
万治元年戊戌十二月十九日卒ス寿八十一

嫡子閑翁宗拙
承応二年癸巳閏五月六日卒ス

四代江岑宗左　逢源斎　湛然斎

寛文十二年壬子十月廿七日卒行年六十

五代良休宗佐　随流斎

元禄四年辛未七月十九日卒行年四十二

二甫宗巴　友流斎

元禄二年己巳五月廿一日卒行年二十四

六代原叟宗佐　覚々斎　芳流斎

享保十五年庚戌六月廿六日卒行年五十二

七代天然宗佐　如心斎　丁々斎

宝暦元年辛未八月十二日卒行年四十七

八代件翁宗佐　啐啄斎

文化五年戊辰十月六日卒行年六十五

九代了々斎宗佐　好雪斎

文政八年乙酉八月七日卒行年五十一

十代吸江斎宗佐

○今日庵歴代

元伯宗旦　今日庵

初代仙叟宗室

元伯の第四男初め医を学び後江戸に於て加州侯へ
召出され禄百五十石代偶に元禄十年丁丑正月
廿二日卒行年七十六辞世に
虚空の象をよこ家く出るとされと
以て津まかくれ明けめう縁

二代常叟宗室　号常山　不休斎

松山侯に仕ふ宝永元年甲申五月十四日卒ス年三十三

三代泰叟宗安　六閑斎

享保十一年丙午八月廿一日卒ス年二十二

四代竺叟宗乾　最斎

享保十八年癸丑三月二日早世

五代一燈宗室　又玄斎　句々軒　梅舎室

明和八年辛卯二月二日卒ス年五十

六代石翁宗室　不見斎

享和元年辛酉九月廿五日卒ス年五十六

七代柏叟宗室　認得斎

補

八代霊白叟宗室

文政九年丙戌七月廿四日卒ス年五十七

○官休庵歴代

初代一翁宗守　似休斎

高松侯に仕ふ延宝三年乙酉十二月十九日卒ス寿八十三

二代文叔宗守

宝永五年戊戌正月廿二日卒ス年五十一

三代真伯宗守　静々斎

延享二年乙丑三月十八日卒ス年五十二

四代竪叟宗守

天明二年壬寅二月六日卒ス年五十八

五代圓明宗号　渓澗　啜齋
六代好々斎宗号

○諸家茶人

珠光　村田氏初名ハ茂吉文亀二年壬戌五月十五日卒ス
壽八十

宗珠　奥福寺中尊教院の下部也光見立て嗣とス

与居引拙　引拙ハ宗珠別号とも又珠光門人ともいふ
いづれか未詳

竹倉屋紹滴　武乗中倉屋ヲ修る引拙と名を齋ふス
泉左海ニ住ス紹鷗門人

松本珠報　山名殿家珠光門人京東洞院ニ住し止楽と
号ス南都松屋所持の三種ハ此珠報より伝来ス

篠道耳　珠光門人宗祇の人なり茶棚ハ此人の所持

粟田口善法　無縁茶人手取釜ヲ一生然ニ楽しむ
手とり釜抔斯まハ口より作り出せる趣
難儀なくと人よりいふ

古市播磨　名ハ澄胤南都の宗徒まで寺の代官珠光
門人古市まで二万石領ス松本珠報ハ三種を
伝来し後松屋へ伝ふ

石黒道提　四十石の壺代所持も子孫東都より伝ふ
紫野正受院ニ所持の茶具あり

最福院　珠光門人異福と申

尊数院　同

宗悟　珠光の門人十四屋と以ふ全甫又休斎と号す

蜂谷宗悟と是別人なり

宗陳　珠光乃門人堺北の端に住す

空海　相阿弥の門人東山殿の小性俗称左京後に北向

道陳の会容となりて道陳へ書院式を伝ふ

大富善幸　珠光門人なり所持に名物の鳴炉あり

利休是を伝来して善幸の鳴炉と以ふ

深見珠徳　珠光門人南都の宗徒く象牙茶匕始

製す世に珠徳形と以ふ

誉田屋宗宅　左海に住す

武野紹鴎　大黒庵一閑居士と号す茶を宗悟宗陳

二人に学ふ弘治元年乙卯十月廿九日卒す年五十三

北向道陳　此田氏利休始めの師なり永禄十一年戊辰

正月十八日卒す年五十九

重宗甫　桐屋と以ふ名物の丸紅臺子を所持す宗甫

柳是なり

津田宗達　天王寺屋と以ふ宗及の父紹鴎門人

津田宗及　宗達の子更遊斎天信と号す天正廿年

辛卯八月九日没す

佐久間不干斎　紹鴎門人名ハ宗透政實の男法名松泉宗

岩寛永八年辛未四月廿七日卒行年七十六

武野宗瓦　紹鴎の男光徹と号ス名ハ爲久幼名ハ
新五郎慶長十九年甲辰八月廿六日卒ス

辻　玄哉　紹鴎門人臺子手前を利休へ傳ふ

今井宗久　紹鴎の聟信長公の茶道昨夢庵寿林と云

同　宗薫　天外と号ス紹鴎の孫宗久の實子信長公の
茶頭後ニ太閤ニ召出され寛永四年丁卯四月
十一日卒ス寿七十六

神谷宗湛　俗称善四郎貞清後善助と云筑前
博多の人なり宗久門人後ニ古渓和尚ニ參禪ス
博多文林の茶入を筑前侯へ献し五百石を賜ふ
寛永元年甲子六月没ス

織田信長公　平清盛廿一世の孫従一位右大臣法名泰岩
宗安と号ス天正十一年壬午六月二日薨ス年
四十九博多の嶋井宗叱を以て茶人信長公へ
御所持の名器拝見を願ひしに二年京に上り
京中の茶器を見んがためなる上までわが道を海が
国より来るべしとて仰出さるゝ故に二年京より
追届しを再び願ひたれば本能寺にて
拝見可被仰付とありて御名器清取寄せられしに
其夜明智の乱に焼くてとえしくを
焼失せり

織田有楽　如庵融覚と号す源五郎信益或ハ長益
といふ信長公の御舎弟なり従四位下侍従に任す
茶を利休に学ぶ元和七年辛酉十二月十三日
逝去年七十

織田道八　有楽公の二男俗名左門頼長山花老人
又一谷山人と号す法名雲生寺殿元和六年
庚申九月廿日卒す

顔輝（カンキ）達磨の賛（サン）あり
不足あれとわきて姿に殊に備り
むかしを書たるいまハ道八
慶長元年と書たる人ありて書す世り　道八生

摩といふ

豊臣秀吉公　豊臣の姓ハ　後陽成帝の賜ふ所なり
慶長三年戊戌八月十八日薨す寿六十二

蒲生氏郷　参議飛騨守奥州会津百万石領す
始ハ江州を領す文禄四年乙未二月七日逝去年
四十法名昌林院高岩宗恵

○蒲生より古田まで世に利休門下の七哲といふ

高山右近　名ハ友祥南坊と号す摂州高槻の城主
慶長十九年故ありて安南国へ流さる

芝山監物　名ハ後一山と称す妙喜庵芝山殿の手水鉢ハ
此人の所持なりしとなり

細川三斎　参議従三位越中守忠興正保二年乙酉十二月二日逝去寿八十三法名松向寺三斎宗立

瀬田掃部　名ハ伊豫初ハ武左衛門正忠摂州三田の城主一万石領せり文禄四年乙未七月又日卒す年四十八湖といふこゝろ龍の平茶碗を所持す利休此茶碗に依てカイ先廣き茶匕を制ス是より倣（ナラフ）て制る人掃部形ハカイ先廣し

牧村兵部　兵部少輔貞勝伊勢岩手の城主也文禄元年壬辰五月十二日朝鮮の地に於て病死ス年四十八法名松嶌院一釜浄向

古田織部　従五位下織部正又万石を領し　印斎と

号ス元和元年乙卯六月十一日故ありて死ス賜ふ年七十二法名金甫宗屋

○右七哲の次第ハ江岑筆記の説による

藪内紹智　剣仲　緝熙堂　薮中斎　燕庵

始め尼ヶ崎に住し後京に入て一家流薮中敏に身を寄せ甚度披ありて本願寺に仕ふ寛永四年丁卯五月七日卒ス寿九十二

山岡宗無　堺の住人住吉屋宗左衛門の先祖之初名ハ捨十郎南溟と号ス大徳寺安宝和尚の父之豊太閤に仕ふ実ハ松永弾正の子之慶長十八年癸丑十一月十九日没ス

万代屋宗安　利休の聟休渓と号す慶長廿年乙卯
四月廿五日卒す

同　宗貫　宗安の子道安の聟一吐斎と号す其子
与吉郎有る家に住てゐる島重右衛門といふ

山上宗二　堺山上の人利休の門人にて豊太閤の茶道
なり一甌庵筆記を著す太閤御前にて臺子
の茶を伝授けりしに其子の御前にて仕りし
とて鼻耳削(ツヒ)を追放(オヒハナ)さるゝにありしところ野山に隠る
其時の狂哥に
志の茶を手に点て我もなりまそ
はなうるをいくて落る御茶道

小堀遠江守政一　藤原姓小堀新助正次の男江州小室の城
一万六百石城賜す茶道を江月和尚より伝来す
江月は宗及の子なり正保十年二月六日卒去
年六十九

佐久間将監真勝　従五位下大膳亮勝之の男織部門人なり
寛永十九年壬午十月廿二日卒す年五十九
法名寸松庵山隠宗可居士と号す寸松庵
旦那なり

浅井権十郎政尹　小堀遠州弟浅井家嗣子元禄七年
甲戌八月四日卒す年七十

桑山左近重長　和州新山の城主従五位下左近将監泊雲

宗佖と号す寛永廿年壬申七月七日卒す寿
八十石州公始の時より後石州公と勤めて道安を
師とせしむ

多賀左近常長　備ゝ宗の家人茶を佐久間寛山の
両家に学ぶ

本阿弥光悦　徳友斎大虚庵と号す寛永十四年
丁亥二月三日卒す寿八十刀剣目利の家なり
茶ハ有楽古織より傳へ来す

舟越伊豫守　従五位下吉勝後永景葉山左近为
旗本にて茶道ハ遠州公門人なり寛文十一年
辛亥九月朔日卒す寿七十四

永井信斎　従四位下信濃守尚政城州淀の城主なり
遠州門人寛文八年戊申九月十一日逝去年
八十二

伊丹屋宗不　堺の住人一債と号す遠州門人寛永七年
庚午九月十八日没す年六十五

園京坊　本国寺の僧利休門人故ありて還俗し
利休の聟となり其後醫を業として園部
道哲と号す

金森出雲守長近　五郎八郎後に兵部卿法印玄英と
称す利休門人慶長十一年丙午八月廿二日卒す
寿八十四

同

宗和　名ハ重近出雲守可重の子長近の孫也
慶長十九年薙髪明暦二年丙申卒す茶
道ハ出雲守より傳来す初ハ京住し後ニ
加州侯の客分となり子孫に至まて華士となれり

片桐石見守貞昌　松隠庵頼政ニ叔宗閑と号す延宝
元年癸丑十一月廿日逝去茶ハ桑山左近ニ
学び後道安に従ふ
○壹拙舟越　石州と世に二宗匠と称す

松浦肥前守鎮信　平戸の城主六万二千石石州に従ふ石州門人

僊首座　龍安寺中大珠院の僧不遠庵と号す元
伯門人元禄九年丙子正月九日寂す

藤村庸軒　名ハ當直反古庵微翁と号す元禄十二年
己卯星九月十七日没す壽八十八元伯門人也
久田又四郎房政の子なりしを十二屋源兵衛の
家を嗣く

久須見疎安　洗竹庵蘂巣と号す庸軒の入婿享保
十二年丁未五月八日死す壽九十三

久田宗全　原叟実父半床庵と号す本名利兵衛
の子なり母ハ江岑の妹元伯の外孫なり宝永
四年丁亥五月六日死す年六十三

同　宗也　半庵不及斎と号す宗旦の男宗全乃
姪なり宗全の養子となる寛保四年甲子正月

十二日死す年六十二

山田宗偏　四方庵又不審庵ヵ圓庵周学と号す初
日蓮宗の僧なり茶式を總て学び後ち還俗
しては小笠原佐渡守殿の茶道と爲す寛永
五年戊子四月没す寿八十又

杉本普斎　俗名大吉夫更入庵得失庵有麦庵ト
の号あり瑞夢の子伊勢山田の御師なり元総
門人寛永二年丙戌六月廿一日卒す峯七十九
法名悦誉宗喜

土肥二三　土波ともいふ自在軒と号す有楽茶道と
貞益に從ふ人貞益二三なり後に享保十七年

壬子正月六日没す寿九十四法名豊隆居士

○又宗道と以ふハ

珠光　紹鴎　利休　織部　遠州
右五家を世に五宗道と称す

○和漢禅師　和漢の古徳是に限るべからずと云へども古師の用ひ来たる例によりて爰に志るす須

圓悟克勤　五祖の嗣なり真覚禅師紹興又年乙卯
八月己酉に寂す

○東山殿の茶席に用ひられし墨跡ハことごとく皆
唐画なりしが公志おもし珠光の宅へ行きて
茶法紙問ひたまふ珠光圓悟の墨跡を懸まう

名物並ニ公も墨跡を愛玉ふ是茶席ニ墨跡掛

用ゆるの濫觴なり圜悟より大徳寺へ法孫伝ふ

ゆへ茶人も祖としてこれを尊む珠光の所持せし

圜悟の墨跡ハ一休和尚の所持なり

大慧宗杲　圜悟の嗣なり普覚禅師と号す隆興元年

癸未八月九日寂す年七十五

虎丘紹隆　圜悟の嗣なり紹興六年丙辰寂す

拙庵徳光　大慧の嗣之仏照禅師と号す

蜜庵咸傑　応庵の嗣なり龍光院に此和尚の墨跡

伝り遠州公此墨跡を用ゆるために好みし席成

ゆゑ是を世に蜜庵席といふ

少林妙崇　徳光の嗣なり仏行禅師と号す

北礀居簡　徳光の嗣なり敬叟と号す

偃溪廣聞　浙翁の嗣なり景定四年癸亥六月十四日

寂す寿七十又

物初大観　北礀の嗣なり

晦機元熈　物初の嗣なり仏智禅師と号す延祐

六年己未閏八月十七日寂す年八十二

蔵叟善珍　妙法の嗣之嘉定十五年五月廿一日寂す

元叟行端　蔵叟の嗣なり普照禅師と号す至正

元年辛巳八月十一日寂す寿八十八

松源崇岳　蜜庵の嗣之嘉定二年八月四日寂す年七十

曹源道生　蜜庵の嗣なり
癡絶道冲　曹源の嗣なり石州云此墨跡試一生用ひ
られしよし
無準師範　破庵の嗣也聖一宋中に参禅の師也
仏圓照禅師と号す淳祐九年三月十八日寂す
明庵榮西 和僧 宋の虚庵の嗣也建仁寺の開山千光
國師と謚す建保三年七月五日寂す年七十五
牧溪法常　無準の嗣なり
斷橋妙倫　無準の嗣なり
希叟紹曇　無準の嗣なり
西岩了惠　無準の嗣景定三年三月十一日寂す年六十九

無学祖元　無準の嗣なり円覚寺の開祖也佛光
國師と謚す子代能尼の師なり弘安九年九月
三日寂す年六十九
兀庵普寧　無準の嗣文永年中皈化して西加茂
正傳寺開祖となり宗覺禅師と号す後ふ
宋に帰て至元三年十一月廿四日寂す
環溪惟一　無準の嗣寿八十
久能圓尓 和僧 弘安三年十月十七日寂す聖一國師
と謚す東福寺の開祖なり 日本國師号の始也
愚極智慧　石田の嗣佛心禅師と号す
頑極行弥　癡絶の嗣なり

虚堂智愚　運庵の嗣咸淳五年十月七日寂す年八十六

簡翁居敬　癡絶の嗣なり

石帆惟衍　運庵の嗣なり

蘭溪道隆　無明の嗣之建長寺の開祖弘安九年

七月廿四日寂す大覚禅師と号す

横川行珙　滅翁の嗣なり至元廿六年十二月十八日

寂す寿六十八

夢堂曇噩　元叟の嗣普済禅師と号す生涯印章

を用ひざれ人く至元七年寂す寿七十九

楚石梵琦　元叟の嗣之西斎老人恵升禅師と号す

洪武二年七月廿六日寂す年七十六

希元道元 和僧 長翁の嗣之仏法禅師と号す建長に住

八月廿八日寂す年五十四

○加藤四郎左衛門道元禅師に従て入唐し世に

藤四郎といふ 茶入の始祖之

鉄壁徳宮　頑極の嗣なり

一山一寧　頑極の嗣之弘済国師と謚す文保元年

九月廿四日寂す年七十一

南浦紹明 和僧 虚堂の嗣なり大応国師と号す筑前

崇福寺の開山延慶元年十二月廿九日寂す

大燈国師の師なり

霊石如芝　虚堂の嗣なり

西澗子曇　石帆の法なり大通禅師と号し徳治
元年十月廿八日寂し年五十八
約翁徳倹　蘭溪の嗣之仏燈国師と諡し元応二年
五月十九日寂し寿七十六
大休正念　石溪の嗣なり佛源禅師と号し正応
二年十一月晦日寂し年七十五
蔚江覚恩　横川の嗣なり
古林清茂　横川の嗣之休居叟と号し
真龍徳夫　愚極の嗣なり
古因徳垢　愚極の嗣之暦応二年正月十一日寂し
高峯顕日　和尚　後嵯峨帝の皇子正和元年十月
廿日寂し寿七十六
無関普門　和尚　聖一の嗣之南禅寺の開山大明国師と諡し
正応四年十二月十二日寂し寿八十
竺仙梵仙　古林の嗣なり来て禅師と号し貞和四年
七月十六日寂し年五十七
石室善玖　和尚　古林の嗣なり康永元年九月廿二日寂し年九十六
了庵清欲　古林の嗣なり南堂と号し利休百会中
其墨蹟を用ゆ至正廿三年癸卯八月廿五日寂し
明極楚俊　虎岩の嗣之焔慧禅師と諡し建武三年
九月廿七日寂し
月江正印　虎岩の嗣なり松月翁と号し

寂室元光 和尚 約翁の嗣之円應禅師と号し貞治六年九月
朔日寂し寿七十八永源寺の開祖之始め美濃より
往きし時新田義貞公度々招きされしかとも
命に応ぜし偈を題して送る其文に曰
新田義貞八一国の主之寂室元光八三界無庵之
三界の広きを以て何ぞ一国の授くるにかえんや
天か下おしむもろともすまれぬをかさね
以しをみのまゝ桃花もあらし
可翁宗然 和尚 南浦の嗣之大聖禅師と号し堺禅楽寺乃
開祖なり画をよくし
関山慧玄 同 大應の嗣之覚照禅師と号し妙心寺乃開
祖なり延文五年十二月十二日寂し
雪村友梅 一山の嗣なり宝覚禅師と号し貞和二年
十二月二日寂し
中峯明本 高峯の嗣なり普応国師と謚し趙子昂
参禅の師也至治二年癸亥八月十四日寂し
平石如砥 東嶌の嗣
夢窓疎石 和尚 高峯の嗣なり正覚国師と号し天龍寺
の開祖観応二年九月晦日寂し寿七十六
春屋妙葩 同 夢窓の嗣なり普明国師と謚し相国寺の
開祖嘉慶元年八月十二日寂し寿七十八
絶海中津 同 夢窓の嗣之翊聖國師と謚し応永十二年

四月五日寂す年七十

玉畹梵芳 同　古岳の嗣なり南禅寺の僧蘭をよくす 画の評にも出ッ

虎関師錬 同　東山の嗣なり本覚国師と謚す貞和二年
七月廿四日寂す六十九

椿庭海寿 同　竺仙の嗣なり木杯と号す

見心来復　南楚の嗣なり蒲庵と号す

愚中周及 和僧　即休の嗣なり応永十六年八月廿五日
寂す年八十七

馮子振海粟　中峯の嗣なり

密雲円悟　千嵓の嗣なり崇禎十五年七月七日寂す
年七十七

費隠通容　密雲の嗣なり

隠元隆琦　費隠の嗣なり黄檗山開祖延宝元年
四月三日寂す寿八十二

木庵性瑫　隠元の嗣之貞享元年甲子正月廿日寂す

○大徳寺歴代

大徳寺中南北の両派あり其初ハさる事も
なかりしが東渓古岳より法孫二派となれり紹鴎
以来の名匠悉く北派にて参禅す故に北派を
記して南派を記さず

大燈国師　号宗峯名ハ妙超姓ハ紀氏弘安五年播州
揖西縣に生れ父ハ浦上掃部入道覚性といふ赤松

円仏の宗族之廿二歳大應國師　南浦紹明　を録し
號〻紹明を得より正和四年乙卯大徳寺を建立し
嘉暦元年丙辰臘月開堂同年四十五
花園帝興禪大燈國師の號を賜ふ
後醍醐帝正燈の二字を加へ玉ふ元弘二年
宸翰を染め本朝無双禪苑と賜ふ建武四年丁丑
十二月廿二日寂す年五十六塔を雲門庵といふ
特ニ興禪大燈ニ高照正燈大慈雲匡真弘鑑常
明国満淨光國師の號を賜ふ

徹翁義亨　大燈の嗣なり大徳第一世大祖正眼禪師
大應大現國師　應安二年己酉五月十五日寂す年七十五

言外宗忠　大燈の嗣なり大徳第七世密傳正印禪師と
號す明徳元年庚午十月九日寂す年七十六

華叟宗曇　言外の嗣なり賜大徳大機弘智禪師正長
元年戊申六月十七日寂す

養叟宗頤　華叟の嗣なり大徳第廿六世宗惠大照禪
師と號す

春浦宗熈　養叟の嗣大徳第四十世正統大宗禪師と
號す明應五年丙辰正月十四日寂す壽八十八

一休宗純　華叟の嗣なり大徳第四十七世
後小松帝の皇子夢閨狂雲瞎驢國系と號す文
明十三年辛丑十一月廿一日寂す年八十八

墨斎紹等　一休の嗣なり号止礫没倫明應元年壬子
又月十六日寂す壽八十二
實傳宗真　春浦の嗣なり大徳第四十四世佛宗大弘
禅師永正四年丁卯四月八日寂す年七十四
古岳宗亘　實傳の嗣之大徳第七十六世近江の人宇多
源氏六角遠江守政頼の子仏心正統禅師正法大聖
國師と号す天文十七年戊申六月廿四日寂す
年八十四小派の主宰なり
傳庵宗器　古岳の嗣く大徳第八十八世号懶驢天文
二年癸巳三月十一日寂す年五十一
大林宗套　古岳の嗣なり大徳第九十世藤家藝菩嬰く
南宗寺の開山佛印円鑑禅師正覚普通國
師永禄十一年戊辰正月廿七日寂す壽八十九
江隠宗顕　古岳の嗣之大徳百二世円智常照禅師
笑嶺宗訢　大林の嗣なり大徳百七世号喝雲利休居
士参学の師なり秘心本光禅師天正十一年癸未
十一月廿九日寂す年七十九
春屋宗園　笑嶺の嗣なり大徳百十世号一黙子朗源
天真禅師大寶円鑑國師と号す慶長十六年
辛亥二月九日寂す年八十三
仙岳宗洞　笑嶺の嗣之大徳百廿二世号無底籃金
毛閣の額ハ此和尚の筆なり文禄四年乙未十月

二日寂ス年五十二

一凍紹滴　笑嶺の嗣より大徳百廿六世号野狸子明堂
古鏡禅師と号ス慶長十一年丙子四月廿三日
寂ス寿七十四

玉甫紹琮　古渓の嗣より大徳百二十世細川幽斎の
弟号半泥子大悲廣通禅師慶長十八年二月
十八日寂ス年六十八

萬江宗程　春屋の嗣之大徳百卅四世徳輝普燈禅
師　慶長十九年甲寅七月四日寂ス年七十二

叢叔宗秀　古渓の嗣より大徳百四十世慶長五年
庚子八月十二日寂ス

雲英宗偉　仙岳の嗣より大徳百四十一世慶長八年
癸卯十月四日寂ス年四十四

月岑宗印　古渓の嗣之大徳百四十二世号虎庵大真
圓光禅師元和八年壬戌四月五日寂ス年六十二

玉室宗珀　春屋の嗣之大徳百四十四世号堇眠子直指
心源禅師寛永十八年辛巳五月十四日寂ス年七十

沢庵宗彭　一凍の嗣より大徳百五十三世東海寺の
開山号冥々正保二年十二月十一日寂ス年七十三

江月宗玩　春屋の嗣より大徳百五十六世号欠伸子
糟袋子津田宗及の子本深無宗禅師寛永廿年
癸未十月朔日寂ス寿七十

賢谷宗良　玉浦の嗣なり大徳百五十九世本覺廣濟
禪師元和七年辛酉十月廿五日寂ス年六十五

文室宗周　萬江の嗣なり大徳百六十六世号晴藝子
寛永十七年庚寅九月七日寂ス年六十九

天祐紹杲　萬江の嗣也大徳百六十九世号夢伴子
又夢叟棄非子佛海祖燈禪師寛文三年
後水尾上皇師とし仙洞に請て入室の法燈をし
玉ふ寛文六年丙午九月廿一日寂ス壽八十一

清嵓宗渭　賢谷の嗣なり大徳百七十世自笑孤陋と
号ス清淨本然禪師寛文元年辛丑十一月
廿一日寂ス壽七十四

安室宗閑　江月の嗣なり大徳百七十六世号洋嶽子
正保四年丁亥四月十日寂ス年五十八

江雪宗立　江月の嗣なり大徳百八十一世号不如無波
雖子看松初住大綱智海禪師寛文六年丙子
六月十九日寂ス壽七十二

江雲宗龍　江月の嗣也大徳百八十四世小堀遠州政一
の男号任運子圓惠靈通禪師孤篷の初住也
延寶七年己未六月十七日寂ス壽八十一

玉舟宗璠　玉室の嗣なり大徳百八十五世号麦霞山
人表瞻子大徹妙無禪師寛文八年戊申
十一月十八日寂ス年六十九

仙溪宗春　龍嵓の嗣子大徳百八十九世号冷笑子
霊輝恵明禅師貞享元年甲子十一月廿五日
寂ス寿八十
天室宗竺　玉室の嗣之大徳百九十世号一如子大覚
円明禅師寛文七年丁未八月廿八日寂ス年六十三
舊山宗英　天祐の嗣子大徳百九十四世号宗眠子
明暦二年丙申七月廿五日寂ス
翠嵓宗珉　江月の嗣之大徳百九十五世泉南の人号
似玉栖芦子法雲大師禅師寸松二世寛文四年
甲辰七月廿二日寂ス年五十七
傳外宗左　天祐の嗣之大徳百九十六世号凍雲子
大通智勝禅師延宝二年乙卯四月二日寂ス
年六十八
乾英宗單　清嵓の嗣子大徳百九十八世号未納
恵能神照禅師寛文十二年壬子十二月廿九日
寂ス年六十二
春沢宗見　玉舟の嗣子大徳二百一世元禄七年
甲戌閏五月六日寂ス寿八十二
寶堂宗傳　清嵓の嗣子大徳二百二世号如倚法
雄直徳禅師延宝四年丙辰九月廿八日寂ス年六十四
一溪宗什　玉舟の嗣之大徳二百十一世号覚普通禅
師天和四年甲子六月十六日寂ス年六十七

祥山宗瑞　天室の嗣なり大徳二百十四世号夢月
道人大円鏡智禅師永禄六年癸亥十二月
十六日寂す寿七十五

天倫宗忽　清嵩の嗣也大徳二百十六世号不可得
真英法鑑禅師元禄十年丁丑六月廿二日寂す

賀休宗文　江雲の嗣なり大徳二百廿五世小堀遠州
孝子因機真煌禅師元禄二年己巳十一月
廿八日寂す年五十四

大心義統　天倫の嗣なり大徳二百七十二世号巨紗
子小仙子蓮花童子享保十五年庚戌六月
七日寂す年七十四

龍嵩宗棟　月溪の嗣なり大徳二百八十七世号宇雲
無際真空禅師元文六年辛酉二月六日寂す
年七十八

竺嶺宗悟　雲秀の嗣なり大徳三百十四世延享三年
丙寅六月廿日寂す年六十九

鷲谷宗拜　陽峯の嗣なり号徳禅

大龍宗丈　鷲谷の嗣也大徳三百四十一世号蒙庵大宗
正宗禅師寛延四年辛未三月十六日寂す年五十六

藍谷義因　練了の嗣大徳三百四十二世宝暦六年
丙子五月七日寂す寿六十四

萬仭宗岱　鷲谷の嗣号徳禅師般若中興明和

二年丙戌十一月廿七日寂ス
龍門宗禹　大龍の嗣なり号桃蕊堂佛肅子梁山
　　寛延元年戊辰十月廿五日寂ス年廿八
萬輝宗旭　天溪の嗣なり大徳三百七十世
無學宗衍　龍門の嗣なり大徳三百七十八世号把不住
　至聖大妙禅師寛政三年辛亥正月十六日
　　寂ス或ハ庚戌十二月廿日 壽七十
堯州宗寛　斗山の嗣大徳三百七十九世
要道宗之　楊林の嗣大徳三百九十八世
　○珠光以来参禅の師
珠光ハ一休　紹鷗ハ大林　利休ハ笑嶺

織部ハ春屋　藪内ハ春屋　三斎ハ清巌
少庵ハ蒙叔　元伯ハ玉室　江岑ハ清巌
随流ハ一溪　原叟ハ大心　如心ハ大龍
吽翁ハ無學　石州ハ玉舟　遠州ハ江月
宗徧ハ祥山　一翁ハ玉舟　仙叟ハ乾英
了々ハ要道　普斎ハ乾英

○画家之部

茶家用ゆる所の絵ハ漢画之是利家御物目録
振て兹に志るす人の名ハ相阿弥の筆に従ふ

○唐

韓幹（カンカン）　馬の画を工すを曹覇（ソウハ）を師とせり

韓滉（カンコウ）　字ハ太冲人物牛馬ニ極て上なり

戴嵩（タイスウ）　韓滉を学び妙とせりされど妙に及ばざれども牛ニ其のよく野性を尽し出藍（シュツラン）の称誉（ホマン）あり

邊鸞（ヘンラン）　丹青を以て蒼生代時に號れ花鳥に長じ大抵設色より精しきこと人をして良工の斧鑿（フサク）の痕（アト）のなきがごとし

禪月　釈貫休字徳隠羅漢を画くに上なり

李思訓（リシクン）　字ハ建見山水林泉をよくし唐の宗室なり

○五代

徐熙（ジョキ）　花鳥獣虫をよくし画く所多くハ澄心堂紙なり画絹に画きハ絹の設粗なり米元章がいへりし徐熙が絹ハ布のごとしといふ是なり其骨氣風神古今の絶筆なり

黄筌　字要叔成都の人也山水人物花鳥に上なり

○宋

徽宗皇帝　姓ハ趙諱ハ佶丹青ハ晋唐の風韻（フウイン）あり

郭熙　山水を画くに其妙神に入る

趙昌　字昌之写生人物草虫に上なり

牧渓　名法常龍虎猿鳥芦雁山水樹石人物を画くことごとく筆に随て點墨して成る意思を費さずして神に妙なる

玉澗　慈静もの儒なり山水を上とすれ

馬遠　興祖の孫世栄の子なり山水人物花鳥を画くに委く
妙にいたる宣和院人中の独歩なり

夏珪　字禹玉山水人物に工なり

馬麟　遠の子なり能家学を嗣く馬遠其子を愛して
己(オノレ)が画上に馬麟と落款(ラクハン)をけぶし其子の誉を
得んことを欲してなり

梁楷(リヤウカイ)　号梁風子山水人物鬼神を画くに工なり嘉泰
年中画院待詔と成る

李龍眠(リリウミン)　名ハ公麟字ハ伯時因宋代の名手のおのし善(ヨクス)
法とこつめて以て己が宥(ユウ)とし専ら一家とす宋画
中の第一として茶古に照映す

胡直夫(コチヨクフ)　人物牛馬を工にす

樓観(ロウクハン)　山水人物花鳥をよくす

李安忠(リアンチウ)　水禽野鳥鷹走獣に工なり宣和画院に居す
紹興中官賜金帯に至る

李迪(リテキ)　山水花鳥牛馬竹石に工なり李安忠と名代
ひとつしす

高然輝(カウゼンキ)　名ハ克明又克恭字ハ彦敬号ハ房山花鳥
山水を工にす

李唐(リトウ)　字ハ晞古(キコ)山水人物牛をよくす

呂紀(リヨキ)　花鳥山水に工なり

率翁(ソツオウ)　人物花鳥をよくす

陳所翁（チンシヨ）　名ハ容（ヨウ）字ハ公储（コウシヨ）龍を画くに生動の気紙上に
溢る（アブ）宋画中龍を画く者其右に出る者なし
名声一時に冠（クハン）たり
閻次平（エン）　山水人物牛に工なり
文同　字ハ与可山水竹石に精妙なり
米元章　名ハ芾（フツ）山水を工す次萬て竹石に工なり
米友仁　元章の子なり字ハ元暉（ゲンキ）山水をよくし家学
を墜（オト）さず次
葛長庚（カツテウカウ）　号玉蟾（ギヨクセン）山水野鳥水禽（キン）に工なり
趙子罡（テウ）　名ハ伯駒（ハクク）山水花鳥人物に工之
楊補之（ホシ）　名ハ无咎（ブキ）号逃禅（テウゼン）又清夷（セイイ）長者と号す梅竹に工之

李嵩（リスウ）　銭塘の人也人物道釈に工なり
趙子固（テウシコ）　名ハ孟堅号彝（イ）斎山水草梅を工す次
日観　名ハ子温字ハ仲言号知帰蒲萄（ブドウ）を画くに工之
仲華光　釈仲仁梅に工なり

○元

楊月澗　花鳥龍虎と工り次
柏子庭（ハク）　枯木菖蒲と工りし
銭舜挙（シユンキヨ）　名ハ選（セン）号玉潭（タン）又巽峯（ソン）山水人物花鳥に工なり
王若水　名ハ淵（エン）号澹（タン）軒（ケン）山水人物花鳥に工なり
趙子昂（スガウ）　名ハ孟頫（ヘン）号松雪道人山水人物馬に工なり
趙仲穆（チウボク）　名ハ雍（ヨウ）子昂の子なり山水牛馬をよくし

孫君澤　山水人物花鳥をよくす

張芳汝　山水人物牛を工なり

雪窓　釈の普明蘭菜をよくす

顔輝　字秋月道釈人物鬼神猿鳥を工にす

王元章　梅を画くに一世に独歩す

夏明遠　山水楼閣を画く風韻餘情あり

檀芝瑞　竹を工なり

因陀羅　胡僧なり人物佛像をよくす

○明

文徴明　字徴仲号衡山山水を工にす

陳洪綬　字章侯山水花鳥人物をよくす

唐伯虎　名ハ寅号六如居士山水人物花鳥を工にす
画名一時に盛なり

仇英　字實夫号十洲山水花鳥をよくす

戴文進　名ハ進号静庵又玉泉山水楼閣を工にす

沈周　字ハ啓南号石田又白石翁と号す山水人物花鳥を工にす

○和画之部

可翁　名宗然号良全南浦の嗣なり仏仙人物を画く
貞和元年乙酉四月廿八日寂す

玉畹子　名ハ梵芳春屋妙葩の嗣之知足軒と号す蘭菜竹を工にす　探幽の記にも出つ

兆殿司　明兆号吉山又破草鞋と号ス
足利義政公　世ニ東山殿と称ス号天山延徳二年庚戌
正月七日薨ス寿五十六
如拙　相國寺の僧なり宋元の画風拙より始る
周文　号春育相國寺の都司
雪舟　名ハ等揚号備渓斎又米元山主と号ス永正
三年丙寅八月十七日寂ス年八十七
小栗宗丹　号自牧周文を師とし其後一家をなす
小栗宗栗　宗丹の子なり晩年大徳寺ニ寓ス
曽我蛇足　越前の人周文を師とす
啓書記　建長寺の僧祥啓号雪渓又貪楽斎続庵

休月斎等の号あり
揚月　笠置(カサギ)の僧号和玉周文或ハ雪舟を師とす
山田道安　名ハ順貞民部と称ス和州の人周文雪舟を
学び宋画を法とす子孫家法を伝へて三世同名
とりもち
能阿弥　東山殿茶道号春鴎斎能
藝阿弥　能阿弥の子にて藝号学叟
相阿弥　藝阿弥の子号鑑岳又松雪斎と号ス子ハ
伝阿弥といふあり子世ス
雪村　俗名田村平蔵法名周継号鶴舟老翁
等顔　号雲谷雪舟第二世

松花堂　名昭乘号惺々翁寛永十六年己卯九月
十八日寂ス年五十六
土佐光信　廣周の子左近将監ニ任ス
同　光起　中興の祖左近将監従五位下ニ叙ス号春
可軒法名常昭
同　光成　光起の男刑部大輔ニ任ス
同　光祐　光成の男初名光高左近将監ニ任ス
同　光芳　光祐の男左京進
同　光淳　光芳の男土佐守正五位下ニ叙ス
同　光貞　光芳の二男土佐守ニ任ス
狩野元信　四郎次郎大炊助越前守号玉川永禄
二年己未十月六日卒ス寿八十七
同　雅楽助秀信　或ハ之信号鯛隠元信の弟
同　松栄直信　元信の子民部卿法眼文禄元年壬辰
十月廿一日卒ス年七十六一説ニ八十
同　永徳州信　又重信源四郎右京松栄の子なり
天正十八年庚寅九月十四日卒ス
同　玉楽　元信門人北條氏政ニ仕フ
同　孝信　永徳の男右近将監
同　探幽斎守信　采女と称ス宮内卿法印ニ叙ス孝
信の子延宝二年甲寅十月七日卒ス寿七十三
同　自適斎尚信　主馬と称ス始の名ハ一信孝信の二男

慶長二年庚寅四月七日卒ス年四十四 一説ニ四十七

同 牧心斎安信 右京と称ス号永真孝信の子なり

同 山楽光頼 木村永春の子永徳門人寛永十二年

乙亥八月卒ス年七十七

同 山雪 山楽の子なり通称縫殿助号蛇足軒

同 探信 探幽の子なり通称図書名ハ守政

同 探雪 探幽の二子なり名ハ守定号益謙斎

同 常信 尚信の子なり法印ニ叙ス号古川叟養朴

耕寛斎等の号あり正徳二年癸巳正月廿七日

卒ス年七十八

同 周信 常信の子なり通称右近号如川

長谷川等伯 通称久六雪舟を宗として自ら其五代

と称ス

同 信春 等伯の子通称久蔵筆力父ニ超えたり

同 等的 等伯門人

海北友松 名ハ紹益永徳門人後一家となせり

同 友雪 友松の子よく家風を嗣ぐ

喜多川宗達 京師の人俵屋対青と号ス

尾形光琳 京師の人 東福門院ニ仕ふ方祝又壽と

舎長江新篆の号あり

英一蝶 初の名ハ多賀信香安信門人後一家を成ス

号潮湖小宗翁享保九年甲午九月十二日卒ス

年七十二
鶴沢探山　名ハ守直探幽門人初ハ幽泉と云
久須見守景　通称半兵衛雪信の夫なり無下斎と号す
探幽門人
雪信　探幽の姪孫なり清原氏と称す

○連歌師之部

種玉庵宗祇　紀州の人自然斎と号す山法師行助の
門人文亀二年壬戌七月廿七日卒す寿八十二
猪苗代兼載　宗祇門人耕閑斎と号す永正七年庚午
六月六日卒す
柴屋軒宗長　宗祇門人天文元年壬辰三月六日駿州

泉谷にて卒す年八十五
牡丹花肖柏　宗祇門人三光坊夢庵と号す大永七年
丁亥四月八日卒す年八十五
桜井基佐　宗祇門人通称弥三郎永仙と号す
里村昌休　花下宗匠名ハ堯景天文廿一年壬子
十一月五日卒す
同　昌叱　昌休の子なり策庵芦鋒斎と号す慶長
八年癸卯七月廿四日卒す年六十五
同　紹巴　昌休門人南都の人臨江斎宝珠庵と
号す慶長七年壬寅四月十三日卒す年七十七

北村季吟　拾穂軒又呂庵等の号あり法印叙す
寳永二年卒す寿八十八

茶道筌蹄巻之二終